

ケアセンターけやき

症 例 概 要 ご利用者：60代 女性

病 名：パーキンソン病、左変形性股関節症、両側変形性膝関節症、糖尿病

経 過：R6年5月左変形性股関節症疼痛緩和目的にて近隣大学病院にて左人工股関節全置換術施行。翌月にリハビリテーション目的で竹川病院に転入院される。入院後はご本人の早期退院希望により同月末には自宅退院の運びとなりました。

けやき訪問看護・リハビリ、通所リハビリが協業で介入することで、車椅子移乗・移動見守りレベルが屋内歩行器歩行レベルに向上しました。若い頃より地域活動に積極的に取り組まれていた活動にも徐々に参加できるようになってきましたので報告をさせていただきます。

内 容

平成22年頃よりパーキンソン病を発症し(現在も通院治療を継続中)、オンオフ症状がありながらも、若い頃より取り組まれていたボランティア活動をしており、イベント会場の事前見学や板橋区外での活動にも積極的に参加しておりましたが、令和元年頃より股関節疼痛増強し車椅子を使用するようになってからは、移動やトイレの問題で他のボランティア職員に迷惑をかける事があり、現地での活動頻度が減少しました。そのため、自宅からリモートで会議に参加し、企画案や発注など自宅でする裏方の活動を引き受けるようになりました。

再び歩けるようになり会場に足を運ぶことを期待し、令和5年5月近隣大学病院にて左人工股関節全置換術実施、同年6月に竹川病院に転院となりましたが、当初から短期入院を希望しており、股関節と膝関節の疼痛、筋力及び耐久性の低下が残存、移動は車椅子使用、生活全般に介助が必要な状態でしたが、同月末自宅退院となりました。早期自宅退院の際、竹川病院・けやきの連携があった事が大きな安心に繋がったと話されたおります。

退院後すぐにけやき訪問看護・リハビリ、通所リハ実施、ご本人からは「立つことをあきらめていたけど、歩きたい」と希望があり、自宅内での歩行機会を持てるように目標を設定し、疼痛を招かないように段階的に下肢の筋力増強、耐久性向上、室内での歩行療法等を実施してきました。

現在では、室内は四点歩行器（ピックアップ歩行器）を用いて移動が可能になりました。他者の支援なしで歩けるようになり、「わずかな距離でも歩けるようになったことでストレスが減った」と喜ばれています。



この変化を受けて、お孫さんと温泉旅行に行き、歩行器を使って大浴場に入れるようになったことを喜ばれました。また、休止状況だったボランティア活動も再開でき、現在はボランティア活動にピックアップ歩行器を使って参加し、仲間の手を煩わせることもなくなったと喜びの声が聞かれています。

今後もできることを増やしていき、運動や環境整備を行いながら、必要な部分には他者の支援を受けつつチャレンジしていくことを目指しています。